

## 「みことばを一心に見つめて離れない」ヤコブ1：21～25

堀田修一 21・2・28

I 先行的神の恵み＝主は、私達を愛し、私達のすべての汚れ、溢れる悪の罪の為に十字架で死なれた。神は、私たちの魂を救う御言葉、聖書を与えて下さっている。私達が主を信じる時、素晴らしい救いが与えられる。救われると洗礼を受けたい願いがご聖霊により与えられる。ゆうき君、洗礼おめでとうございます！洗礼は神の家族である教会の喜びです！

II 汚れ、悪を捨て、みことばを受け入れる。「ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを素直に受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます」：21。汚れ、悪を捨て去る力も神は与えられる。

1. 「すべての汚れやあふれる悪を捨て去り」→汚れやあふれる悪は、みことばをふさぐ。「捨て去る」とは、それらの罪を神に正直に告白し、十字架の血によって赦しを受け（Iヨハネ1：7～9）、内住の御聖霊に頼り日々聖められ、御聖霊に頼り悪から離れるよう心掛ける事（ローマ8：13）。

2. 汚れや悪を捨て去るだけでなく、いのちのみことば（聖さと愛の源）を心に受け入れる。悪を出すと心にいのちのみことばを入れるスペースが増し、良いみことばを心に入れると悪が出る。①頭ではなく、「心」に植えつけられたみことば。②植えつけられたとは、その時初めて読む御言葉というより、日頃から良く読み、心に蓄えている御言葉（詩119：11、コロ3：16）。ディボーション、礼拝メッセージの御言葉、暗唱聖句を蓄えたい。③みことばを「素直に受け入れなさい」。不品行、悪、人を赦さない怒りの誘惑の中で、植えつけられた御言葉を受け入れ、これまでの主の恵みを思い起こし、自分に語り掛け、御言葉に頼りたい。主は、悪魔に御言葉で勝利された（マタイ4：1-11）。

3. 「みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます」。御言葉にはいのちと力がある。御言葉は、私たちの魂を救い、汚れ、悪、悪口、怒り、憎しみから守り、聖さ、愛、寛容、自制の実を結ばせる。

III 「みことばを行う人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となってははいけません」：22。

1. みことばを→①良く聞く。：19。②素直に受け入れる。：21。③そのみことばを行う時、そのみことばが本当に自分のものになる。みことばを実行しようとする時、自分の力では無理（自分には愛、聖さが無い）とわかり、ますます主により頼む。泳ぎ方の試験が、ペーパーのテストで満点でも、実際に水に入り学んだ事を実行する時にはじめて、泳ぎが自分のものになるように。みことばを聞くだけで日常生活に活かさないことにならないように祈りましょう。

2. みことばを聞くだけで実行しない人は「自分を欺いている」：22。聞いたことを、自分の事として受け取らない。「このみことばは、あの人にピッタリだ。あの人に聞かせたかった」と考え「これは私への主の御言葉」と受け取らず、聞くだけで心と生活は変わらない。「もうこの御言葉の教えは何度も聞き知っていますよ」と高ぶる。そうではなく、御言葉を真剣に自分への主の語り掛けとして聞き味わい、反芻する時、深く教えられ、その御言葉そのものに力があり実践が生じてくる。真実に御言葉を「聞く」と「実行する」ことが御聖霊により結び付けられる。

3. 聞くだけで実行しない人のたとえ。「みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は、自分の生まれつきの顔を鏡で眺める人のようです」：23。「眺めても、そこを離れると、自分がどのようであったか、すぐに忘れてしまいます」：24。御言葉も「鏡」として私たちの心の状態をあらわに映し、どんなに罪に汚れたものか、また日常の日々の心の姿がどのようであるかを示して下さい。※証し。そうされながらも、

そこに示された罪を悔い改めようとせず、御言葉の勧めも実行しようとしなければ、真の成長はない。実行する気もなく、御言葉を聞くと忘れやすい。私たちも、御言葉を聞くだけで、日常生活ではすっかり忘れ、信仰と日常生活が分離してしまわないように祈りたい。

4. みことばを実行する人の特徴。「しかし、自由をもたらす完全な律法を一心にみつめて、それから離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならず、実際に行う人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます」：25。①「自由（みことばにより主を信じる信仰による罪の滅びからの自由、御言葉と御聖霊による罪の力からの自由）をもたらす完全な律法（「わたしは、わたしの律法＝聖霊の内住を彼らのただ中に置き、彼らの心（旧約：石の板。新約：私達の心）にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる」エレミヤ31：33）を一心にみつめて離れない＝とどまる（ヨハネ15：4）。みことばを一心にみつめる（熟視する）。「罪が熟すると死を生む」（ヤコブ1：15）が、逆にいのちの御言葉は、熟視され留まる、反芻する、御言葉を記し持ち歩き見、思い起こす時、いのちある行動、実行を生む。御言葉を一心にみつめて、真の意味を知ろうとする。すぐにすべてがわからなくても、見つめ続ける。時が来て理解させられる。※証し。生涯教えられ続ける！飽きる事はない。御言葉は深い。②「完全な律法、自由の律法」とは＝神が私たちに与えられた御聖霊による御言葉、聖書。i 神の律法、みことばは完全で誤りがない。人間の律法は、いつも時代により変わる。※全然の使用も世論の読み方も。広辞苑も。しかし神の御言葉は不変。だから安心して御言葉を読み従える。歴史的、科学（科学が真理なら。科学の仮説は変わる）の面でも誤りのない聖書。ii 真の自由（救い）を与える律法（聖書）。間違ったユダヤ人たちは、旧約聖書の精神（愛、憐み、神への信頼、心の聖さ）をおろそかにし、外側だけを気にし、自分勝手に解釈し、多くの規則を付け加え、自分たちと人々を窮屈にしていた（マタイ23：13, 14, 23～28）。本来、御言葉は私たちに罪から自由にする（ヨハ8：32）。御言葉（主を信じる者に与えられる十字架による赦しと永遠の命の福音）を信じる時、新しい命・性質、御霊の内住を受ける。その新しい性質と内住の御霊の教えにより聖書を読む時、その御言葉は単なる文字ではなく、主に喜ばれる行いを結ぶ命、力である（Ⅱコリ3：6）。御聖霊は、御言葉と共に働かれ、私たちに、主に喜ばれる事が出来る自由を与えて下さる。聖書的な自由とは、悪い事でも何でもしても良い自由ではなく、罪の束縛から自由にされ、主の喜ばれることができる自由。御言葉を喜び楽しみ従える自由。「私は、あなたのさとしの道を、どんな宝よりも楽しんでいきます」詩119：14。

IV 御言葉を実行する結果。「その行い（御言葉の実行）によって祝福されます」：25。

1. その行いによって「救われます」と言われていない事は非常に大切。この世に、自分の行いによって救われる人は一人もいない。神の律法を自分の力で完全に守れる人は一人もいないから。主は、その為に、この世に来られ、律法を完全に守り、私たちの為に十字架で死に、私達の罪を完全に償い、「信仰による救い」の道を開かれた。※洗礼は、主を信じた事の公の告白。洗礼はゴールではなくスタート。

2. 「それ（互いに足を洗い合う、主のみことば）を行うときに、あなたがたは祝福されるのです」ヨハ13：17。祝福とは＝神に喜ばれ、神の恵みを体験させられ味わえること。私たちの喜びそのものである神、祝福の源である神ご自身がそばにいて下さることこそ祝福である。聞くだけで御言葉を実行しない人は、日常生活の中で神を体験できない。御言葉を良く聞き、一心に見つめて離れないで実行する時、神の祝福がある。その祝福とは、その御言葉の理解がますます深まる事でもある。「主の教えを喜びとし昼も夜も そのおしえを口ずさむ（思い巡らす）。その人は…時が来ると実を結びその葉は枯れずそのなすことはすべて栄える（主の祝福を受ける、神が益とされる）」詩篇1：2-3。